



社会福祉法人 三愛学園

児童養護施設 さんあい

一時保護所 オリーブ男女

自立援助ホーム 三愛子ひつじ寮

令和7年度事業報告

【法人理念】 神を愛し 人を愛し 土を愛す

【養育目標】 思いやりのある子

令和7年度事業報告

理事長総括

社会福祉法人三愛学園 理事長

高瀬 一使徒

理事長という立場で令和7年度を俯瞰的に振り返ってみますと、「何とか乗り切れた」という思いになります。それは薄氷を踏む思いで職員を確保し大切な社会資源として児童養護施設、一時保護所、そして自立援助ホームの機能を存続させたという安堵感からです。しかし「感謝だったこと」と「課題だったこと」という2つのテーマで年度を振り返ってみますと、1年間様々なことがありましたが結局、神様に守られて歩むことができたという思いで一杯になります。

感謝だったこと

地域小規模「ねむの木」の運営が安定し本園を含めて大過なく過ごせたことは大きな感謝すべきことです。特に本園と地域小規模との間に溝や誤解が生じることなく、2つの拠点が一体となって運営できたことは「ねむの木」を設置する際の私の理想でしたので感慨深いものがあります。新年度の「ねむの木」の職員と児童の配置についても固定せずにフレキシブルに考えて数名の異動がありました。これは職員や児童それぞれの成長を信じて同意して受け入れてくれたからです。家庭的養護の深化という視点では後退と映るかもしれませんが、職員も児童も一生さんあいにな籍するわけではありませんので、将来を踏まえた運営という視点からは私はむしろ成長と捉えています。もう一つのサービス拠点の「三愛子ひつじ寮」は新ホーム長を中心に法人理念との融合を模索しながらホーム運営に取り組みました。感謝な成果としては本園に習いクリスマス・ストーリーを含めたクリスマス会を実施することができました。また正職員1名が欠員状態の中でパート職員を確保し正職員の穴を埋められたことは大きな成果だと思っています。パート職員の役割分担に関しては本園が将来参考にできることが沢山あります。

創立50周年記念事業の準備が順調に進み一部は完了いたしました。記念誌は当初想定した物より内容もボリュームも充実したものになります。また感謝会の場所や内容も固まり予約も完了しています。大型倉庫の設置は市役所への建築許可申請も順調に進んで新年度中には設置できる見込みです。すでに完了したものとしては、記念フラッグポールと防球ネットの設置です。感謝をもってご報告いたします。

課題だったこと

最大のものは年度途中での退職者が数名でたことと中途採用者の短期間での離職です。病気等の理由もありましたが選考方法や採用後の研修の充実など今後取り組まなければならない課題も見えてきました。またこの影響で一時保護所「オリーブ男子」を3か月間閉鎖状態にせざるを得なかったことも課題でした。人材不足・雇用情勢の好転が見込められない中で人材不足時の事業継続プランが必要です。他の児童養護施設は人材不足により児童定員の削減まで進んでいます。幸い当法人のサービス拠点は、何とか踏みとどまっていますが、情勢はますます厳しくなってゆきますので、新年度から新たに職員定着、中途採用拡充、パート職活用等の課題に取り組んでまいります。

最後に養育の質の向上の課題です。これは永遠の課題です。例えば「挨拶を交わし合う」という目標1つにしても職員間で大きく向上したとは言いきれません。子どもたちの間にあってはなおさらです。強制されるような挨拶ではなく、お互い同士を気にかけるような挨拶ができる職場・生活の場であって欲しいと願っています。そういう意味で挨拶は、養育の質向上の一丁目一番地と考えています。

キリスト教の祈りは、「感謝」と「願い」を神の前に捧げることです。これからも神に祈り、各拠点の長をサポートし一步一步進んでまいります。

令和7年度事業報告

1. 児童養護施設さんあい総括

平本施設長

令和7(2025)年度は、3年に一度の第三者評価が実施された年でした。様々な施設の評価を行っている第三者機関の調査員の方々が来園され、施設内の環境や運営状況の確認、職員および子どもたちへの聞き取り調査が行われました。その結果をまとめた報告書では、①施設として子どもが意見表明を行う多くの機会を設け、その意向や意見を真摯に受け止め、前向きに対応していること、②日々の生活の中に楽しみと学びが自然に組み込まれており、子どもたちから「楽しい」という意見が複数寄せられていること、③迅速かつ密な話し合いによる情報共有と問題解決が、当施設の活力につながっていること、などが評価されました。

一方で、2025年に事業を開始した地域小規模児童養護施設の地域展開のあり方について検討を深めること、個人情報保護に万全を期すこと、職員の成長を支えるため上司との面談機会を増やすことなどが、今後必要な取り組みとして挙げられました。

また、外部による確認という点では、行政による実地監査も実施されました。大きな指摘事項もなく、安堵しています。マンネリ化を防ぐことはもちろん、「一生懸命取り組んでいるから良い」という自己満足に陥ることなく、PDCAサイクルを意識しながら、常に改善と成長を続けられる組織でありたいと願っています。

さらに、外部者の関わりとして、子どもの意見表明等支援員、いわゆる「子どもアドボケイト」の受け入れを今年度、初めて行いました。子どもアドボケイトとは、主に児童養護施設や乳児院などの施設に入所している子ども、里親家庭に委託されている子ども、児童相談所の一時保護所にいる子どもなど、社会的養護の下にある子どもたちに寄り添い、その意見や気持ちを丁寧に聴き取り、必要に応じて行政や関係機関へ代弁して伝える役割を担う専門職です。

今年度、さんあい対象となったのは、一時保護所オリーブの児童でした。来園したアドボケイトの方が、希望した子どもと一対一で面談を行ったり、一緒に遊んだりする中で、子どもたちが自分の気持ちを整理し、自由に意見を表現できるよう支援しました。なお、聴き取られた意見や意向については、施設が直接知ることはありません。そのことによって、施設職員以外にも、子どもたちが安心して自らの考えを表明できる大人がいることを伝える機会になったと考えています。

次年度は、児童養護施設本園にもアドボケイトの派遣が予定されています。第三者評価結果でも挙げられた、「子どもが意見表明を行う多くの機会を設け、その意向や意見を真摯に受け止め、前向きに対応する」施設であり続けるため、今後も努力を重ねていきたいと思っています。

運営面では、人手不足により、一時保護所オリーブ男子の活動を一時、休止するという出来事もありました。職員が24時間体制で子どもたちの生活を支える入所施設にとって、必要な職員数の確保は不可欠です。また、子どもたちの抱える課題も複雑化・重層化する傾向にあり、それらに対応できる専門性の向上やチーム力の強化も、引き続き重要な課題となっています。

創設者である高瀬美武先生が、「少しでも養護を必要とする子どもたちを受け入れたい」との思いからさんあい設立を決意、同じ志を持つ人々に声をかけてから50年となります。あらためて「事業は人なり」という言葉を心に刻みながら、これからも目の前の子どもたち一人ひとりと真摯に向き合っていきたいと思っています。

令和7年度事業報告

入退所児童データ（高柳FSW）

① 入退所児童数 (R7. 4. 1～R8. 3. 31)

月	措置入所					一時保護			
	在籍数	入所	入所理由	退所	退所理由	一時保護	一時保護理由	一時保護解除	一時保護解除理由
4	36					3	身体的虐待1 性的虐待1 母入院1		
5	36							1	施設入所1
6	36					4	母出産2 養育困難1 身体的虐待1	5	家庭引取3 施設入所2
7	36					1	養育者不在1	1	家庭引取1
8	36					1	身体的虐待	3	里親委託1 保護所変更2
9	36					1	身体的虐待1	1	家庭引取1
10	36					1	養育困難		
11	36							1	家庭引取1
12	36					2	身体的虐待1 ネグレクト1		
1	36			3	家庭引取2 自援入所1	4	身体的虐待3 性的虐待1	2	家庭引取2
2	33	1	養育困難1			2	養育者不在1 性的虐待1	2	施設入所1 家庭引取1
3	34	3	乳児院1 心理的虐待1 関係不調1	1	進学1	2	身体的虐待2	3	家庭引取1 自援入所1 保護所変更1
合計	427	4		4		21		19	

② 退所先別 (R7. 4. 1～R8. 3. 31)

退所先	男の子ブロック	女の子ブロック	一時保護ユニット
家庭	2		10
里親委託			1
進学		1	
就労			
自立援助ホーム	1		1
措置変更(施設、GH)			4
一時保護所			3
その他			
合計	3	1	19

令和7年度事業報告

③ 年齢別在籍児童数（R8.3.1）

	幼児				小学生						中学生			高校生			合計
	未満児	年少	年中	年長	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	
男児	1	1	1	1	1	2	2		2			2	1	1	1		16
女児		1		2	1		2	2	1	1	3	1	1	2		1	18
合計	1	2	1	3	2	2	4	2	3	1	3	3	2	3	1	1	34

④ 措置理由別児童数（R8.3.1）

措置理由		幼児	小学生	中学生	高校生
家出	父				
	母				
	両親				
死亡	父				
	母				
	両親				
疾病	父				
	母				
	両親				
離婚					1
棄児					
虐待	身体的虐待		3	1	2
	心理的虐待		2		
	性的虐待				1
	ネグレクト	2		3	
親の精神疾患		3		1	
服役			1		
未婚の母の子			4	2	
経済的理由		2	3		1
里親委託解除			1		
その他				1	
合計		7	14	8	5

⑤ 児童相談所別児童数（R8.3.1）

児童相談所	中央	南	熊谷	川越	越谷	所沢	草加	朝霞	さいたま市北部	さいたま市南部	合計
男	1	1	3	4	2	2	1	2	0	0	16
女	2	2	6	1	1	2	2	2	0	0	18
合計	3	3	9	5	3	4	3	4	0	0	34

令和7年度事業報告

3. 年間行事（青木統括主任）

行事の種別	期日	実施内容
園内行事 学校行事 (全体)	4月 6月 9月 11月 12月 1月 3月	各学校入学式・始業式、保育園入園式・進級式 入園入学を祝う会 創立記念祭「さんあいまつり」 ガーデンパーティー さんあい大掃除 クリスマス会 もちつき・2分の1成人式 卒園卒業を祝う会 各学校卒業式・修了式
グループワーク 活動	2月 4月	小学生「お泊り会～カレー作り&交流ホールでキャンプ！」 中高生「中高生レストラン」 ※2月に予定していたが感染症流行のため令和8年4月に実施。
カフェさんあい ボランティア		その他、ボランティア講師による「ヒップホップ・ダンス・レッスン」（年間計12回）、「ピアノ・レッスン」（年間計20回）を実施。個別、グループを対象にした学習ボランティアも通年で実施
招待関係 地域行事 深谷西島教会 高校生自立支援 セミナー 等 (施設又は部屋 で対象児童を調 整)	4月 5月 6月 7月 8月	深谷西島教会「イースター復活祭」（小学生、職員） 松村様バスケットボール教室（小中高生、職員） 針ヶ谷地区「出停懇会・八幡大神社」（小学生、職員） 安藤農園様「いちご狩り」御招待（一時保護児童、職員） 深谷西島教会「花の日礼拝」（小学生、職員） 深谷七夕祭り 深谷祭り・子ども神輿参加（小中高生、職員） むさしの村様御招待（幼児、小学生、一時保護児童、職員） 深谷市商工会「おかべマルシェ」 NHKエデュケーショナル様「おかあさんといっしょスペシャルステージ」御招待（幼児、職員） 日本キリスト教団埼玉地区KKSユースキャンプ（中高生、施設長）

令和7年度事業報告

		吉本興業様「お笑いライブ交流イベント」(小中学生、職員) 深谷東ロータリークラブ様「ボーリング大会」 相談支援センターYeast様「カヌー体験! 都幾川」 埼玉県社会的養護を考える会「さいたま子どもキャンプ」(中学生、職員) 9月 児童養護施設はなこみち祭りご招待(幼児、職員) 10月 おかベコスモス祭り セブンイレブン様「彩の国フェア収穫体験」(小学生、職員) 11月 木下大サーカス様立川公演(小学生、職員) 2月 キッザニア東京様ご招待(小学生、職員) 3月 深谷西島教会子ども祝福式
櫛挽子供会行事 (小学生対象)	7月 8月 11月 12月 3月	七夕祭り飾り作り(地域婦人会合同) くしびき夏祭り(地域自治会行事) 親睦食事会(花園フォレスト) クリスマス会 歓送迎会・総会(新一年生も参加)
各部屋行事(特別 外出・宿泊行 事)	7月 8月 8月 8月 10月 11月	もみのき(栃木県): 井頭公園一万人プール、那須どうぶつ王国等 ねむのき(山梨県): 萩原フルーツ農園、忍野八海、桔梗信玄餅工場見学等 かしのき(神奈川県): 箱根小涌園、新江の島水族館等 いちろう(東京都・埼玉県): よみうりランド、川越散策等 ひのき(長野県): 軽井沢あそびの森、碓氷峠鉄道文化むら、浅間牧場等 ぽぷら(千葉県・東京都): 東京ディズニーシー、上野動物公園等
(部屋外出・個 別外出行事)	通年	国営武蔵丘陵森林公園、東京スカイツリー、新宿バルト9、東京ドーム野球観戦、彩の国熊谷ドーム、小江戸川越散策、映画館、ラウンドワン、ララアリーナ東京ベイ(バスケットボール観戦)、サンシャイン水族館、群馬県立自然史博物館、アンパンマンこどもミュージアム、別府沼公園、本庄日出児童館、木のむらキャンプ場、ぐんまこどもの国、新江ノ島水族館、パティオ、こども動物自然公園、スマーク伊勢崎、本庄総合公園、華蔵寺公園遊園地、イオンモール、イルミネーション、トンデミ平和島、レトロトンマッコル新大久保、渋谷散策、深谷テラスパーク、いきもの探検隊上尾、川越水上公園プール、おかベ農園、深谷花鳥カフェ、陶芸体験工房、等々

令和7年度事業報告

4. 職員研修実績（青木統括主任）

主催団体・機関	研修会内容
埼玉県教育局	児童虐待防止支援研修（平本施設長）
全国児童養護施設協議会	全国児童養護施設中堅職員研修（金C、竹内絵C、新道C）、全国施設長研修会（平本施設長）、養育・権利擁護セミナー群馬会場（河村主任）
埼玉県児童福祉施設協議会 埼玉県児童福祉研究会 埼玉県社会福祉協議会 全国社会福祉協議会	施設長県外視察研修（平本施設長）、心理職員研修（山口心理士）、施設間派遣研修（雑岩崎L、菅L）、埼玉県児童福祉施設中堅職員研修（細井C、久保田C、加藤C）、埼玉県児童福祉施設指導者研修（細井C、久保田C、加藤C）、新任職員研修①（齋藤C、中澤C、中野C、品川C、竹内咲C、坂本C、加藤主任）、新任職員研修②（齋藤C、中澤C、中野C、品川C、竹内咲C、坂本C、加藤主任）新任職員研修③（齋藤C、中澤C、中野C、品川C、竹内咲C、坂本C、加藤主任）、2年目職員フォローアップ研修（浅見C、原口C、滋野C）、3年目職員ステップアップ研修（上田C、杉浦C）、4～6年目キャリアアップ研修（小暮L）、児相職員との合同研修（大谷C）、虐待防止研修・施設長マネジメント研修（平本施設長、加藤主任、河村主任、鈴木主任）、ファミリーソーシャルワーク研修（高柳FSW、坂本FSW）
関東ブロック	関東ブロック児童養護施設職員研修会（大谷C、新海C、細井C）、関東ブロック児童養護施設研究協議会（青木統括）
その他	熊谷保健所管内給食施設研修会（坂田栄養士）、小児食物アレルギー研修会（坂田栄養士）、熊谷児相里親関係研修（野田里SW）、子育てワークショップ（山口L）、子育てワークショップフォローアップ研修（鈴木主任）、発達知的に遅れがある子への性教育（河村主任）、包括的性教育（河村主任、竹内絵C）、児童相談所一時保護施設研究会（青木統括）、インシデント分析実践型研修（細井C）、埼玉純真短期大学発達障がいセミナー（杉浦C、品川C）、埼玉県母子生活支援施設協議会性教育（竹内絵C）
施設内研修 主催セミナー 講演会 等	* 施設内職員研修 さんあいスーパーバイザーである櫻井奈津子先生による園内研修 ① 4/23（水）「新任職員研修」（1年目職員） ② 5/28（水）「本園女の子ホーム・ブロック会議でのSV助言」 ③ 6/25（水）「一時保護所職員研修①」（オリーブ職員＋専門職） ④ 7/23（水）自立援助ホーム職員研修（子ひつじ寮職員） ⑤ 9/24（水）「事例検討～ケースを読み込む～」（本園職員） ⑥ 10/20（月）「関東地区一時保護専用施設情報交換会」（12施設3児相30名） ⑦ 11/26（水）「リーダーに求められること」（リーダー級職員） ⑧ 12/10（水）「児相合同ケースカンファレンス」（女の子ブロック） ⑨ 1/28（水）「一時保護所ケースカンファレンス」（オリーブ職員男女別に実施） ⑩ 2/25（水）「1年目職員振り返り研修」（1年目職員） ⑪ 3/25（水）「令和8年度新任職員・入職前研修」（令和8年度新任職員）

令和7年度事業報告

5. ケアワーク総括

① 女の子ブロック総括（鈴木主任・河村主任）

令和7年度の女の子ブロックは、幼児3名、小学生7名、中学生5名、高校生3名の計18名の児童と、新任職員3名が加わった14名の職員でスタートしました。女の子の1つのお部屋が地域小規模となったことで主任も2人体制になりましたが、職員が抱え込まないように、またお互いの良い部分を取り入れられるよう、今まで通りいちょう・ぽぷら・ねむのきの3部屋を女の子ブロックとして運営していきました。3月に高3児童が高校卒業と共に退所し、将来の夢に向かって新たな一歩を踏み始めました。



ぽぷらは地域小規模から1名の小学生を迎えてのスタートでした。大きなランドセルを背負い頑張って歩いた小学1年生。初めての部活、少し難しくなった勉強に苦戦した中学1年生。感情のコントロールが苦手な児童の対応をする上で、どうにもならない現実に向かい、職員皆が疲弊してしまう中でも部屋運営をしていかなければならないという、今までに経験したことのない程大変な1年でした。何よりチームで支え合う事の大切さをより実感した1年でもありました。一泊二日の旅行はディズニーシー！！子どもたちは大喜

びで前日からワクワクが止まりませんでした。当日は県民の日だったこともあり大渋滞で、行きは5時間程かけてやっと到着。子ども達も車内では疲れた様子を見せていましたが、到着したらそんなことは忘れて大はしゃぎ。素敵な思い出が増えて良かったです。入所当時から将来の夢を語り、進学のためにアルバイトで貯金を頑張っていた高3児童も無事に志望校に合格し、退所時にはみんなでエールを送りました。



いちょうは高校入学や中学入学の児童もいて、環境の変化が多い年でした。音楽が好きな児童が多かったのも、よくリビングでみんなで歌を唄ったり踊ったりして盛り上がっている事も多かったです。ホーム外出ではよみうりランドや川越散策に行き、手作り煎餅作りも体験してきました！！遊園地ではジェットコースターに初めて挑戦して涙目になった子や絶叫系が好きで何回も乗る子もいて、ワクワクした表情を見せてくれ職員も一緒に思いっきり楽しみました。高学年児童は携帯電話やパソコンでの情報を鵜呑みにして情報を信じてしまう傾向もあり、ネットリテラシー教育を定期的に行っていました。おやつに手作りホットケーキを作ったり、みんなで施設内の交流ホールでカラオケ大会をしたり、子ども達の希望を叶えようと職員も計画をして実現することができました。



令和7年度事業報告

令和7年度のねむのきさんは、〈ありがとう〉〈ごめんなさい〉を伝え合うお部屋になろう、まずは職員が子どもたちの見本になろう、ということを確認して1年が始まりました。ただ、地域小規模での生活が始まってしばらくしてから気付く必要物品の整備だったり、新たなマニュアルの作成だったり、広すぎる庭の整備だったり、思った以上に課題が多く、当初思い描いていた運営ができずにもどかしさを感じる1年でもありました。「地域小規模」という名前になっても、子どもたちにとってはさんあいの中の1つのお部屋であることは変わらないので、何より子どもたちが混乱しないよう、園内行事やアニマルクラブなどの活動は今まで通り参加。職員自身も抱え込むことがないよう、女の子ブロックの会議には毎回参加し、何かあった時に連携できるよう、フォロー体制を整えました。



それでも子どもたちの生活を第一に、どうすればより家庭的になるか？を職員一人ひとりがたくさん考え、小さなことでもできることを1つ1つ積み重ねていきました。生活の中では、食事作りの日（メニューを考えて買い出しをして作る日）を以前よりも増やしたり、地域とのかかわりを増やそうとスポーツクラブの体験に行ったり、地域のお祭りに準備から参加したりしました。例年通り、長期休みに部屋でのイベント（BBQやリビングでの雑魚寝等）も実施しました。職員としては、広い庭の雑草と格闘するために、毎月「庭整備の日」を作り、担当職員全員で

草刈りや木の剪定を行いました。特別部屋外出は、今回は夏と冬に分けて実施。夏は山梨県へフルーツ狩りや桔梗信玄餅パーク、ほったらかし温泉へ行き、冬はラウンドワンのスポッチャへ行きました。高校受験を控えている児童もいたので、気持ちが切れないようにできるだけ支援しましたが、受験直前で嘔吐下痢や風邪などが流行り、最後までひやひやの連続でした。無事に受験できてまずは一安心、「合格」の文字を見て、やっと胸をなでおろすことができました。

その他、ボランティアで子どもたちの机を製作や、庭の木の剪定をしていただくなど施設外の方にもたくさん支援をいただき、改めて色々な人に支えられて子どもたちの生活が成り立っていることを実感した1年でした。生活の中でも子どもたちから優しい言葉がたくさん飛び交うお部屋になり、職員も嬉しかったです。この感謝とやさしさの文化が続けられるよう、運営についても話し合いながら、さんあいの地域小規模の形を少しずつ作っていかうと思います。



令和7年度も大きな事故やケガをすることなく、1年過ごすことができました。女の子ブロックはこれまでの体制から少し形は変わりましたが、今後も引き続き、日々の職員同士のコミュニケーションを大切にして、何よりも子どもたちの安心安全な生活のために、お互いに意見を出し合ってお互いに協力し合って、より良いチーム作りをしていきたいと思っています。

令和7年度事業報告

② 男の子ブロック総括（加藤主任）

今年度は新たに未満児（1歳）男児と、中2男児を迎えてスタートを切りました。ここ十数年の間に初めての1歳男児の受け入れということで、看護師や栄養士から生活場面で気を付ける事を教えてもらいながらの生活。1歳には何ができるのか、何をしたら事故を防げるのかと日々考え、戸惑いながらも、純粹無垢な笑顔に癒される毎日でした。

今年度は今まで以上に子どもの関係性に注視して決めた居室構成。かしの木は、昨年度から少年野球の入団を希望していた小3男児の要望に応え、幼児のいない部屋を作り、送迎も含めてお部屋で対応しました。もみの木は、1歳男児を受け入れたホームであったため、事故が起こらないよう穏やかな児童が多い居室となりました。しかし、今年度も職員の入退職が多くなってしまったため、もみの木の職員が変更となることが多く、子どもたちが落ち着かなくなってしまう時期もありました。ひのきを一言で例えるならば自由奔放。賑やかな声が聞こえた時は、大抵ひのきからでした。良くも悪くも、我が道を行くひのきの子どもたちから毎日目が離せませんでした！



昨年度末に経験年数を重ねた職員が多く退職してしまった男の子ブロック。今年度は、他ブロックや自立援助ホームから異動してきた職員も加えてのスタートとなりました。顔は見たことあるけれど、どのような職員なのかと様子を窺う子どもたち。いつも癪癪を起こして賑やかな子どもたちも、借りてきた猫のように静まり返る日々。しかし、その期間も長くは続かず、子どもに対して熱心に対応してくれていた職員が、子どもの表出する言動に減入ってしまい9月に退職する運びとなってしまいました。職員の退職に児童、職員共に喪失感を感じていた中、産休に入っていた職員が女児を無事出産したとの嬉しい知らせも舞い込みました。10月には新たに入職した職員と、一時保護担当の職員を交えての体制がスタート。年度途中に職員の変更が相次いだことで、子どもの心の揺れを大きく感じたこともありましたが、ようやく職員の配属が安定し、子どもの生活にも平穏な日々が戻りました。

昨年度高校に入学した高2男児2名は、今年度も年度当初から自己主張が強く、職員を困らせる日々。対応に明け暮れたことも多かったですが、内1名は前向きに自立援助ホームに移動。もう1名は家庭復帰する等、更なるステージに駒を進めることができました。さんあいでの生活に不満を感じたこともあったかと思いますが、さんあいでの経験や職員からかけられた言葉を胸に、立派な大人になってもらうことを心から願っています。



4年前に入所した当初は癪癪ばかりで、授業中も職員が同席しなければ登校できなかった小5男児が12月末に退所。さんあいでの生活の中で少しずつできる事が増え、感情のコントロールもできるようになりました。目標としていた家庭復帰となったので、生活場所が変わっても小5男児が落ち着いて生活できるよう願っています。

年度途中に3名が退所となったため、2月末に小5男児が入所。慣れない環境で戸惑うことも多かったようですが、慣れてからは居室に溶け込み、学校にも馴染むことができました。年度末には小4男児と中1男児が入所。来年度は、現居室のメンバーをほとんど変更せずにスタートを切る予定なので、現メンバーの成長は勿論の

令和7年度事業報告

事、新たに入所した児童にとっても、さんあいは安全で安心な場所だと感じてもらえるよう、日々取り組んでいきたいと思っています。



③ 一時保護所「オリーブ」

リーダーの交代があり4月から職員の新体制で臨んだ男の子オリーブ。その4月から5月にかけてはイベントがたくさんありました。公園外出、入園入学を祝う会、JSF主催イベント、いちご狩り、白バイ乗車体験など、子ども達はどの行事も何日も前から指折り楽しみにしていました。どんなことにも全力で楽しむ子ども達に、職員も共感し一緒に楽しむことができました。

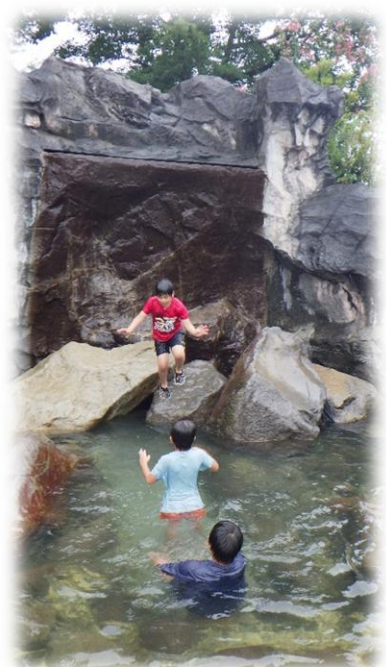
6月には、さんあい祭りで手にしたお部屋の収益で、昼食外出へ行きました。焼肉の食べ放題では、幼児さんは焼肉にはほとんど目もくれず、ここぞとばかりにデザートを楽しむ様子がありました。しかし、ここは一生懸命働いてくれたご褒美ということで好きなだけ食べてもらい、普段外食がほとんどできない子ども達は皆大満足で帰りました。

男の子オリーブでは、二ヶ月に1度は公園などに外出する機会を設けるようにしました。夏には水遊びができる公園や、虫取りができるような公園を選び、入所している子どもの意見を聞きながら場所を選定します。一時保護所にいる間は、ちょっとした外出でも貴重な社会体験の機会となります。そのような機会を通じて社会との自然なつながりを感じてもらえたらいいなと思っています。

また、さんあいを支援してくださる地域の方々からは、夏には朝の採れたてトウモロコシ、冬にはうまみの詰まったブロッコリーなどを届けていただくこともあり、子どもたちは大喜びでした。新鮮な食材を皆で「おいしいね。」と言いながら食べ、職員からは育ててくれた方、応援してくれている地域の方への感謝の気持ちを持つように話しました。

9月には、施設全体的な職員不足により、一時受け入れを停止しました。そのため、入所していた子どもを他所に移動せざるを得なくなりましたが、12月からは新任職員が入職し再開することができました。

一時保護所の子どもは、保護期間が長い子や短い子など様々ですが、入退所の予測をすることは困難です。しかし、短くてもここで生活している間は、子ども達の安全、安心をしっかりと守り、できる限り子どもに寄り添った支援をして、子どもとの信頼関係を作りながら、職員も日々成長していきたいと思っています。



(男の子オリーブ・小町)

令和7年度事業報告

女の子オーリーブでは今年度も、職員4名の体制でスタート。子ども達一人ひとりと向き合う時間がたくさん作ることができました。昨年まで疎かになってしまっていた学習も、ボランティアの先生も来て下さり、情報共有をしながら、子どもたちのレベルにあった学習をすることができたこと、職員も1対1でしっかりと教え、子どもの苦手や分野、得意な分野を把握し、支援していくことで子どもの成長を感じることができました。また、子どもと一緒に遊んだり、のんびりテレビを視聴したり、雑談をして盛り上がったりと家庭的な日常を送ることができました。



今年は、子どもの誕生日だけではなく、職員の誕生日サプライズも行い、当人にバレないようにこっそり手紙を書いたり、プレゼントを作成し、当日にお祝いをすることができました。子どもたちの何かしたい、「〇〇さんはこれが好きだから」という気持ちを感じることができ、純粋な気持ちに感動もしました。

また、外出も行き、遠出をして遊びに行ったり、近くを散歩したり、学校まで行き、遊具で遊んだりもしました。特に今年は職業体験を兼ねた美容室やネイルサロンの体験、ボランティアとして農場でのお世話体験、命の勉強として動物指導センターへお邪魔し、普段体験することのない経験を得ることができました。普段学校へは行けず、行動も制限されている中で、園内だけではなく、園外での活動は、子ども達にとってストレス発散にもなり、知識の幅を増やしてくれる大切なことだと感じられました。

12月からは毎月第1週に子ども会議を実施しました。生活の中で感じている不満や嬉しかったこと、職員への要望等、子ども達の意見を聞きました。普段の生活の中で少なからず感じてしまう他児への不満を話し、嫌なことはしない、嬉しかったことを話し、お互い気持ち良く過ごせるように良いことを増やそうと話しをしました。さらに、職員へもっとこうして欲しい、こんな所へ行きたい、こんな物を買って欲しいという要望もたくさん出ました。もっと甘えたい、もっと遊びたいという素直な子どもの意見も出たり、海外に行きたい、ディズニーに行きたいと一時保護中には難しい意見も出ました。全部を叶えることはできませんでしたが、子どもの意見を元にルールを変更したり、新しく購入したり、皆が生活しやすいような環境作りの良いきっかけとなりました。



園内でも園外でも良いこと悪いこと、さまざまなことを経験し、その経験がその子どもの成長に繋がり、次の場でもその子が楽しく生活できるように日々の暮らしを安心安全な場としていけるよう、これからも職員も成長していきたいと考えています。

(女の子オーリーブ・加藤)

④ グループワーク（主任）※活動内容は年間行事一覧参照

【小学生グループワーク：鈴木主】

小学生グループワークはみんなで話し合い、今回は交流ホールで「お泊まり会」を実施しました。

4つのチームに分かれ、夕食のカレー（シチュー）や朝食のおにぎりの具材について予算も考えながら各チームで相談していききました。

「私はこれがいい！」と主張を曲げられずに少し機嫌が悪くなりそうな子もいましたが、そこは大きい子が優しい声かけをしてくれました。スーパーへの買い出し。調理は近くの公民館の調理場を借りることもでき、広々としたスペースでみんなが協力して1つの物を作り上げる事ができました。各チーム、カレーのルーや具材も違うので、子ども達や職員も色々な味を楽しみ笑いが絶えませんでした。夜はグループ対抗でレクリエーションをして、みんなで一致団結して頑張りました。職員



も夢中になり「頑張れ！」と必死に応援していました。2月だった事もあり、外でのキャンプは難しかったので、交流ホールにみんなでテントを張り、職員と子ども達と一緒に寝ました。夜はぐっすり眠る子とワクワクで寝付くまで時間がかかった子がいました。小学生は12名もおり、特徴がある子もいるので、最初はどうなることかと心配な面もありましたが、テント立て、カレー作り、レクリエーションなど、子ども達がみんなで協力することができ、チームワークの大切さを学ぶ貴重な体験になりました。



【中高生グループワーク：河村主】

令和7年度の中高生グループワークは、中高生会議で子どもたちから希望を聞き、「中高生レストラン」を開催することにしました。当初は2月に実施予定で準備を進めてきましたが、インフルエンザが流行し、やむなく中止の判断を下しました。ただ、子ども達にとって集団活動を通して得られる成長の機会は重要と考え、退所や居室移動など行事等も多い時期ではありましたが、春休み中に日程調整をし実施することができました。

今回は「チームに分かれての主食対決が良い」との声が挙がったので、子ども3チーム、職員1チームで、メニュー決めや役割分担、ポスター作り、当日の会場準備、買い出し、調理、片付けまでを子どもたち中心で行いました。実際に自分たちが作るとなると、どれくらいの材料が必要なのか、何の道具が必要か、時間はどれくらいかかるのか等、想像以上にやることが多いことに気づき、普段食事を作ってくれている職員、材料を用意してくれている職員の大変さを知る良い機会になりました。準備の段階では人任せで積極性に欠ける子も見受けられましたが、当日の買い出しや調理の場面になると、一人ひとりが自分のできることを考えて行動し、皆で力を合わせて立派な主食を作り上げることができました。

Aチームは「肉巻きおにぎり」、Bチームは「カレー」、Cチームは「お子さまオムハン（オムライスとハンバーグ）」、職員チームは「焼うどん」を作りました。メンバーそれぞれ得手不得手がありましたが、お互いに苦手な部分を補い合っている姿を見て、こちらも心が温くなりました。1チーム100人前ほど作り、その日の夕食として交流ホールで児童、職員全員で食べましたが、「美味しい！」と言われて嬉しそうにする中高生の良い表情をたくさん見る事ができました。

令和7年度事業報告

設定された活動の目標はチーム対抗だったので、最後に全員に投票してもらった結果、Cチームが優勝となりました。勝敗は争いましたが、活動を通して1つのものを作り上げるために皆で協力することの大変さだったり、お互いの苦手を補い合うことの大切さだったり、皆に「美味しい」と言ってもらった時の嬉しい気持ちや達成感をチームで共有することの大切さだったり、これから成長して生きていく中で必要なことをたくさん学ぶことができたと考えています。

中高生は部活やアルバイトでなかなか日程を合わせることが難しく、年々開催が難しくなっているグループワークですが、今後も子どもたちの意見を聞きながら、少しでも子どもたちの将来に繋がるようなグループワークを考えていきたいと思っています。



令和7年度事業報告

⑤ 里親支援活動（野田里親支援専門相談員）

「夏みかん」とは、里親とさんあい児童との交流を深め、さんあい「ふれあい家族」（※）の登録者を増やす関係形成の場、また未委託里親の子どもとの関わり方スキル向上のための機会提供を目的とした活動です。今年度も寄居町風布の「やまき園」を会場として様々な活動を実施しました。

※さんあい「ふれあい家族」：週末や長期の休みの期間に児童に家庭体験をさせていただける里親の事

実施日	内容	人数
4月20日	シイタケ狩り、下りハイキング、おたまじゃくし探し	園児・職員10名、里親子（未）3名 ボランティア0名、合計：13名
6月29日	工作、射的遊び、かき氷、レトルトカレーライス 駄菓子屋散歩	園児・職員10名、里親子（未）6名、 ボランティア1名、合計：15名
8月24日	沢遊び、レトルトカレーライス、かき氷	園児・職員11名、里親子（未）2名 ボランティア0名、合計：13名
11月9日	みかん狩り、みかんジュース作り、ゲーム交流 レトルトカレーライス	園児・職員11名、里親子（未）2名 ボランティア0名、合計：13名
1月25日	餃子作り、みかん狩り、完熟みかんジュース作り、駒 づくり	園児・職員8名、里親子（未）3名 ボランティア0名、合計：11名
3月15日	うどん作り、ふきのとう収穫体験、ふきのとう天ぷら 工作、ゲーム	園児・職員11名、里親子（未）5名、 ボランティア2名、合計：18名

埼玉県里親支援専門相談員連絡会活動

児童相談所・里親会・他 県との意見交換	研修を通し各団体との関係性を深めた	4回
里親制度啓発活動	市町村で行われた福祉祭り	16か所（10月～12月）
広報誌発行	里親に向けた広報・施設職員に向けた広報	2回

熊谷児童相談所管轄内啓発活動（管轄内の施設と児童相談所が実施）

里親制度啓発活動として パネル展示	市町村の庁舎、文化会館、図 書館にて展示	16市町村 ※熊谷児童相談所管轄内すべての市町村にて実 施
広報誌への掲載依頼 ホームページ掲載の依頼	市町村に掲載原稿案を作成し 依頼	里親制度についての説明を市町村担当者に分か りやすく掲載していただいた
熊谷児童相談所との意見 交換	パネル展示原案・市町村広報 原稿案の確認	児童相談所から里親委託状況の正確な情報を得 た。
里親制度対面説明	市町村の民生委員に里親制度 について説明	パネル展示を実施した市町村のうち1か所で実施

令和7年度事業報告

6. 各タスクチームの活動報告

① 広報タスクチーム（松本事務長）

【成果】

- ・ 今年もさんあい新聞を4月、6月、10月、1月の年間4回発行することで、さんあいや子ひつじ寮の今の様子を外部に発信することができました。そのことを通して理解者、支援者への報告となると共に、卒園生に対しては施設との関係維持にも寄与しています。
- ・ 今年度は、年度途中に郵便料金の値上げがありましたが、昨年度に続き今年もさんあい新聞は毎号500部以上を送付しています。徐々にではありますが送付先も増えており、支援者の拡大に貢献しています。新聞の内容を見て、金品の寄付をくださる方もおり感謝です。
- ・ 市内のお店に置かせていただいている募金箱の回収を行い、たくさんの募金をいただいたことを確認、感謝を持って受け取りました。（令和7年度募金箱の募金総額：37,419円）
- ・ 定期的にブログの更新を行う事により、活動への興味、関心を持つ人への発信、見学希望者、採用希望者、ボランティア希望などの問い合わせの増加につながっています。
また、ホームページからさんあいを知ったサンタルギー二、Vチューバーの方からの寄付なども継続しており、クリスマス等、さんあいの子どもの状況を見ながらプレゼントや寄付を届けて下さいました。
- ・ ホームページに加えて、今年度はInstagramの更新も頻度を上げ、さんあいの様子をSNSにより発信しました。フォロワー数も徐々に増えており、新たな広報ツールとなることが期待されます。



Instagramのフォロワー数
200人を超えました。

【課題】

今年度の成果を踏まえ、次年度は以下が取り組みの課題と考えています。

- ・ さんあい新聞をさらに読みやすくするための工夫、またタイムリーに話題を情報発信する方策
- ・ 募金箱の回収に行く時間を確保し、支援をしてくださる方々との良好な関係を維持するための取り組み
- ・ 郵便料金の値上げを考慮しつつコスト削減に努め、現在のさんあい新聞発行ペースを維持する方策

② 職員研修タスクチーム（青木統括主任）

【主な活動】

- ・ 櫻井奈津子スーパーバイザーによる園内研修等 全11回実施（※園内研修実施表参照）
- ・ 施設内他ブロック体験（1年目職員対象）

【成果】

- ・ 元和泉短期大学教員の櫻井先生は児童養護施設での現場経験もあり、職員の苦悩にも共感しながら、個々の課題に丁寧に向き合ってくださいました。肯定的な視点から職員自身の努力や強みに気づく貴重な研修の時間となりました。3月には新年度に入職する新任職員の入職前研修として、子どもとの向き合い方や職員間のコミュニケーションの在り方などを学ぶことで新社会人としての意識向上に繋がりました。

令和7年度事業報告

- ・ 毎年恒例の「他ブロック体験」では、1年目の職員が他ホームで実地経験を積みました。同じ施設内であっても、子どもによって対応が異なることや、職員の動きが変化することを体感できる貴重な学びの場となりました。キャリアプランを考える上でも有意義な体験となりました。

【課題】

- ・ 櫻井SVは職員からの信頼も厚く、多様なテーマについて相談できる存在です。次年度は主任やリーダーを中心に現場が必要としている研修内容について継続的に相談しながら、より実践的な研修の充実を図っていきたいと考えています。

③ 職業／社会体験タスク

【主な活動】

- ・ 一般社団法人JSF.CO（JAPAN SPIRIT FOUNDATION.CO）様との交流イベントを3回開催

【実施内容】

- * 焼き鳥、焼きそば、唐揚げ、カレーライスなどをご用意して下さり子どもたちとの昼食交流
- * 子どもたちへのプレゼント贈呈及びビンゴ大会
- * JSFメンバーによるカットボランティア、ネイル体験

- ・ 職場見学、お仕事体験

【実施内容】

- ① JSFメンバーの方のお店「ネイルサロンLIAN」「美容室C-LINK」にて小学生女児の職場見学及びカット、ネイル体験を2回実施。
- ② 嵐山町にあるNP0法人ななさと様（就労継続支援B型事業所）にて、動物たちのお世話やお掃除、卵の出荷作業体験などを実施。
- ③ 小学生対象に行った「将来なりたいお仕事アンケート」で一番多かった大工さん体験として、施設の修繕でお世話になっている地元の大工さん（山口様、高橋様）にご協力して頂き、動物小屋「ぶどうの木」ができるまでの作業を学び、実際に浄化槽とぶどうの木の間に木製の柵を作る作業を体験した。

【成果】

- ・ 一般社団法人JSF様には子どもたちとの交流イベントのみならず、職場体験として子どもの興味が深い「ネーリスト」「美容師」について実際の店舗に行き体験させて頂くことで子どもにとっては将来の夢に繋がる貴重な体験となりました。
- ・ 大工さん体験の木柵作りでは、大きな木槌で杭を打ち込み、インパクトドライバで柵を取り付ける作業の体験は男の子にとっては興奮するほどの楽しさがあり、完成した時の達成感も大きなものでした。

【課題】

- ・ 小学生対象に行った「将来なりたいお仕事アンケート」では様々なお仕事が出ましたが体験や見学の受入れ先を見つけるのが難しい現実もあります。地域には子どもたちが知らないお仕事がたくさんあります。誰もが知っているお仕事だけでなく、子どもたちが知らないお仕事も開拓し、地域との繋がりも含めた体験の場を目指せればと考えています。



令和7年度事業報告

- ・中高生を対象とした企画が実施できませんでした。高校卒業後の進路を考えるためにも中高生の社会体験として仕事だけでなく進学に向けた専門学校、短期大学、大学などを実際に見る機会も考えていきたいと思います。

生教育タスクチーム（河村主任）

生教育タスクチームでは、子どもたちには「自分は大切にされている」と感じてもらえるよう、職員にはく生活全部が生（性）教育！>という意識が高まるよう、様々な取り組みを実施しています。

令和7年度は以下の取り組みを実施しました。

【取り組み】

○トイレ新聞発行 <5月：気温に適した服装、7月：汗ってなーに？、夏休み特別号：友達と仲良くなるコツ、10月：プライベートゾーンの約束、1月：風邪やインフルエンザに負けないために、3月：境界線>

○クールごとのドラマ・アニメの内容のチェック

○個々の課題に応じた個別の生教育の実施

- ・小学校高学年女子対象：思春期の身体の変化・ネットリテラシー

- ・中高生女子対象：自分の身体の守り方（思春期の身体の変化・妊娠・出産・避妊・性感染症等）

- ・中高生男子対象：マスターベーションについて

○年代に応じたグループプログラム

- ・幼児：ふわふわことばとちくちくことば、いいタッチわるいタッチ、トイレの使い方、バランスよく食べて元気になろう

- ・小学校低学年：手洗いうがいと洗体洗髪、ふわふわことばとちくちくことば、バランスの良い食事と歯磨き

- ・小学校高学年：汗の仕組みについて知ろう、コミュニケーションはキャッチボール、健康でじょうぶな身体を作るには

- ・中高生男子：境界線（全2回）

- ・中高生女子：ネットリテラシー（全3回） ※嵐山学園多機能化事業

○各部屋の児童間の関係性チェック（夏休み・冬休み）

○教育タスク会議の中での「10分間学習会」

○毎月の居室内での境界線・プライベートゾーンの約束の確認

○各部屋に性教育関係の絵本の設置（おとこのトイレ・おんなのトイレ・アイラブミー）



中高生グループプログラム：
ネットリテラシー

【成果】

- ・ 毎月のタスク会議で子どもたちの生活の様子を共有し、その時に全体で伝えたいことをタイムリーにトイレ新聞で取り上げることで、子どもたちに話題を出しやすくなった。トイレ新聞を見ることで、気温や天候を気にして服装を選ぶことができるようになった児童もいた。
- ・ 子どもたちがどのようなアニメやドラマを観ているのか、どのようなものに興味があるのか、職員が知るためのツールになった。一人ひとりの職員が子どもたちの状況や特徴、生い立ちなどを考えた上で「これは見ても大丈夫か」と意識を高く持てるようになってきた。

令和7年度事業報告

- ・子どもたちの能力や理解力に合わせて繰り返し実施することで、集団で学ぶ時にはフォローしきれない部分を丁寧に教える事ができた。個々の課題に応じて内容も柔軟に設定することができた。定期的の実施した児童の中には、確実に知識が定着している児童もいる。
- ・同年代で集まって話を聞くことで、「自分ではなく一般的に身に着ける知識や習慣」であることと伝えることができ、一時的であっても生活の中で変化が見られた児童もいた。プログラムの内容を現場の職員にも共有することで、生活の中でも話題として出しやすくなった。
- ・子ども同士の支配・被支配の関係性について把握することができた。子どもたちの中でも「困ったことを相談できる場」として定着しつつある。次年度の部屋構成を考える際、子どもたちにとっての安心した環境作りのための1つの判断材料になった。
- ・毎月のタスク会議の中で、動画視聴をしたり、研修報告をしたりすることで、子どもたちへの説明の仕方を知るヒントになったり、外部から得た知識をタスクメンバーに共有する機会となった。
- ・プライベートゾーンの6つの約束（見ない・見せない・触らない・触らせない・言わない・言わせない）と3つのお願い（もし誰かに触られたり見られたりしたら逃げる・大人に言う・友達がそのようなことをされていたら大人に教える）については、子どもたちの中でも定着しつつある。境界線については、特に物のやり取りについて、職員の見えない所で勝手にする児童は減り、確認してくる児童が増えた。
- ・子どもたちが生活の中で楽しみながら自分の身体やところについて学ぶ1つのツールになった。



小低グループプログラム：
自分の身体は自分で守ろう（動画を観ながら洗髪の練習）

【課題】

- ・職員数が増えてきている中で、性の事故が起こらないよう、職員の意識を統一させていくこと。また、職員全体で性教育（ネットリテラシー含む）を学ぶ時間の確保が難しい。
- ・性（生）教育を担う職員の育成。生活場面で必要な時に必要な生（性）教育を実施できるよう、しっかり技術や対応力を身に付けていくこと。そのために、まずは職員が外部・内部研修などで、性教育の現状や子どもたちの現状を知る機会を作る。嵐山多機能化事業と連携し、性教育のツールについても知る機会を作り、職員の引き出しを増やしていく。
- ・グループプログラムで学ぶメリットもあるが、だんだんと子どもの中でも能力や理解力の差が大きくなっている。生い立ちも様々なので、今後は個別の性教育を充実させていくことが必要。準備に時間と労力がかかるので、そこをどうしていくかは課題。



幼児グループプログラム：
「おんなのこトイレ」読み聞かせ

令和7年度事業報告

④ 子どもの権利擁護タスクチーム（高柳FSW）

【成果】

- 職員向けの取り組みとしては1,2年目の職員を対象に【不適切とは言えないが、「その対応で良いのか？」と感じる対応】についての事例検討を行いました。この事例検討については令和5年度に全職員で実施した内容であったため、令和6年度以降に入職した職員を対象としました。
具体的には、行動を急がすためにカウントダウンをする、鬼が来ると伝え行動を正す等、日常生活の中で良くあるシチュエーションを事例とし、様々な角度から意見交換を行う事ができました。
施設として権利擁護についての認識を継承するためには、今後も同様の事例検討を継続する必要性は高いと考えています。
- 児童相談所から配布される『こどもの権利ノート』について、改めて内容を確認する場を設定。子どもの理解を助けるためのパワーポイントを作成、使用して、子ども自身の権利についての理解を深めました。
- 今後導入される意見表明等支援員(アドボケイト)についての事前理解として、タスク内で動画視聴を行い、理解を深めました。



【課題】

- 令和7年度にはオリーブ児童を対象に意見表明等支援員(アドボケイト)との面接を実施し、今後は本園児童との面接も想定されています。令和6年度には子ども安全課の方から概要について説明を受ける場を設定していますが、スムーズな導入に移行できるよう、子どもや職員の理解を深める取り組みを実施できたらと考えています。
- 子ども・施設サポート委員の方が同席した事例検討では、部屋会議についての事例検討を実施しました。子どもにとってもっとも身近な意見表明の場が部屋会議となるので、今後は部屋会議の在り方や内容についてタスク内でも協議し、施設としての考え方を確立できたらと考えています。

⑤ 療育タスクチーム（加藤主任）

【主な活動】

- 年3回ずつのプログラム実施
 - （からトレ：身体トレーニング 9名参加）
 - （ことトレ：言葉のトレーニング 4名参加）
- 埼玉純真短期大学の学生と合同プログラム実施
- 療育スポーツ大会(3月開催予定が急遽延期)
- iPadに療育アプリをインストール、管理



期)

令和7年度事業報告

- ・ 長期休みのトランポリン設置(夏休みに破損し廃棄せざるをえなくなったため活動は途中で中止)

【成果】

- ・ からトレでは、今年度も動物ポーズやケンケンパリングを用いた身体を動かす粗大運動と、紐通しやボタン付け等の指先を意識した微細運動を実施することができました。また、からトレで使用するグッズとして、型はめパズルを一から作ったり、施設内で修繕を担当している職員に平均台を手作りしてもらったりしたことで、プログラムの充実を図ることができました。
- ・ 今年度のことトレは、発足当初より最も少ない4名のみの参加となりました。プログラムとしての盛り上がりには欠けましたが、より個別の課題に応じたプログラムを実施することができました。
- ・ 以前さんあい勤めていた職員が、埼玉純真短期大学の助教となったことで、初めて学生を交えた合同プログラムを実施することができました。学生は授業の中で療育グッズを作成し提供。療育プログラムに参加している児童は学生が作成した療育グッズを使用して機能の向上を図ることで、ウィンウィンの関係を構築することができました。
- ・ 療育タスクの発足当初から関わっている加藤と、今年度新たに療育タスクの一員として携わることになった鈴木主任とで、ビジョントレーニングの研修に参加させてもらうことができました。研修では、講師の話を聴くだけでなく、自ら参加者としてビジョントレーニングを実践することで、動きと思考には相互に影響力がある事。目をトレーニングするだけでなく、身体全体の動きを取り入れたトレーニングを行うことが重要であることを学びました。



【課題】

- ・ 昨年度からの課題として、療育グッズの貸し出しが自由にできるように、貸し出し簿やルール作成をしようと考えていましたが、今年度はグッズの整理をしたのみに留まってしまい、貸出まで進めることができませんでした。ホームでもっと身近に療育グッズを活用してもらえよう、来年度は体制を整えて開始できるようにしていきたいと思います。
- ・ 例年通り、長期休みに誰でも自由に使えるように大型トランポリンを設置していましたが、夏休みも終わりに近づいた頃、支えとなる脚が折れてしまい、使用できなくなってしまいました。以前から劣化が目立っていたので、怪我人が出なかったことが唯一の救いでした。新たなトランポリンを購入するため、助成金の受給を検討していましたが、年度内に受給の目途が立たず、購入することができませんでした。来年度は大型トランポリンを購入し、長期休暇の設置と、からトレでの使用を再開していけたらと思います。
- ・ 今年度実施した埼玉純真短期大学の学生との合同プログラムを来年度も継続して行うことで、療育タスクの活動の拡充を図っていけたらと考えています。また、からトレやことトレだけでなく、ビジョントレーニングを取り入れたプログラムの実施についても検討し、再来年度以降に開始ができるような体制を整えていけたらと思います。

令和7年度事業報告

⑥ 学習支援タスクチーム（山口リーダー）

学習支援タスクでは、今年度も中高生の定期テスト前に学習会を開催し、落ち着いて学習に集中できる環境を提供しました。ホームを離れて交流ホールに集まり、仲間とともに学習に取り組むことで気持ちの切り替えにもつながり、集中して勉強に取り組む姿が見られました。

また、今年度の夏休み学習会は中高生を対象に開催しました。普段は部活動やアルバイトで忙しい子どもたちも、「この日は宿題を進める」という目標を持って参加していました。さらに、夏休みに入り学習から遠ざかっていた子どもたちにとっても、学習習慣を取り戻すきっかけとなりました。

今年度は新たな取り組みとして、尾島チャペルの吉井先生による英語学習会を実施しました。この学習会は、カードを活用しながら楽しんで英語に親しむことを目的としたもので、子どもたちは意欲的に参加していました。また、吉井先生には定期テスト前の学習会にも参加していただき、職員だけでは十分に対応しきれない部分についても丁寧に指導していただきました。学習支援タスクにとって、大変心強い支援となっています。

来年度もこれまでの形にとらわれることなく、子どもたちが学習に集中できる時間や環境を整えるとともに、学習への苦手意識を軽減し、親しみを持って取り組める機会を提供できるよう努めていきます。



令和7年度事業報告

⑦ アニマルセラピー・タスクチーム（村尾）

【成果】

- ・ 参加希望を募り、14名のメンバーで活動を開始
- ・ 狂犬病ワクチン接種実施。動物病院への付添を体験
- ・ ノミ・マダニ・フィラリア駆除薬を年7回実施（動物病院にて血液検査実施→体内寄生虫無を確認）
投薬当番を決め、忘れずに実施
- ・ 犬、ウサギ、魚、鳥のお手入れは、月3回で年間36回実施
- ・ 環境整備として、ぶどうの木内の掃除、ぶどうの木周辺の草むしりは定期的に実施
- ・ ボランティアの支援をいただき、犬のトリミング、爪切り等行い清潔を保つ
- ・ 日曜班の活動年22回実施：9名参加



【活動】

4月	・ 狂犬病予防接種、健康診断	アニマルクラブ付添1名
5月	・ わんちゃんと宝登山に登ろう！	アニマルクラブ中高生5名
6月	・ ペットショップへ行こう！	アニマルクラブ全員
7月	・ 映画会：バグズライフ（昆虫が主役の作品）	園内全児童
8月～9月	・ わんちゃんとお泊会	アニマルクラブ全員
	・ 動物指導センター訪問：獣医師講話、トリミング見学	アニマルクラブ3名
10月	・ 動物指導センター訪問：命の勉強会	一時保護所児童
11月	・ わんちゃんと公園を散歩しよう！	アニマルクラブ中高生3名
	・ 牧場体験：牛舎見学、羊のえさやり体験	アニマルクラブ10名
12月	・ わんちゃんとパティオまで散歩に行こう！	アニマルクラブ全員
	・ わんちゃんとイルミネーション散歩に行こう！	アニマルクラブ全員
3月	・ わんちゃんと小学校まで散歩に行こう！	アニマルクラブ全員

【課題】

今年度の活動をふりかえり、次年度は以下の課題を検討、取り組んでいく予定です

- ・ 児童の長期的な参加により、心が安定するよう働きかける
- ・ 動物のお世話を当番制にする事で責任感を養い、他児童と協力する事を学ぶ
- ・ 動物、メンバーを思いやる心、感謝の心を、「ありがとう」の挨拶から育む
- ・ ウサギ小屋の環境の充実（日当たり面、エサ置き場 等）
- ・ 暑さ寒さ対策等、ぶどうの木周辺の整備
- ・ 動物指導センターとの連携を継続し、今年度も命の勉強会を依頼する
- ・ 生き物の命の大切さを年齢ごとに学ぶ機会の創出
- ・ 新しい生き物の飼育を始める時は、飼い方、性質等学んでから始める
- ・ 動物達の体調管理



令和7年度事業報告

⑧ ワクノビ・タスクチーム（平本施設長）

5年目に入ったワクノビクラブの活動ですが、最初の企画は7月、アニマルクラブと共催での映画会でした。いのちの大切さを虫たちの物語から感じてもらおうとディズニー映画『バグズライフ』の上映会を実施。

夏休み中にはブラジルから来られている宣教師の方に指導していただいてブラジルのお菓子作りに挑戦。合わせてブラジルの文化や生活についてのお話も聴きました。

宣教師の方々には、その後も協力していただいて、ポルトガル語の指導をしていただきました。成果は、さんあいのクリスマス会で、「主はきませり」をポルトガル語を交えて歌って発表することができました。日本から見ると地球の真裏にある遠い国が、少しだけ身近になる体験でした。



ふかや社会福祉法人社会貢献活動推進連絡会の提案で、コロナなど感染症対策でなかなか交流が進まない地域の老人福祉施設の方々と子ども達をビデオ・メッセージでつなげよう、という企画があり、ワクノビクラブで参加することにしました。「幸せなら手をたたこう」の歌に合わせて子ども達がリハビリ体操を踊ったものを録画。3月、その作ったビデオを観た施設のお年寄り1名が来園してくださり、交流することができました。普段あまり接する機会のないお年寄りと直接話しをしたり、車いすを押したりと良い経験になったので、次年度はさらにこれを発展させたいと考えています。

⑨ アフターケア・タスクチーム（野田里親支援専門相談員）

【成果】

- ・ さんあいまつり後、第7回同窓会開催。卒園生、元職員等全27名参加。
- ・ さんあい大掃除後の交流のひと時を実施。
- ・ 実家便申請、職員から手紙送付(対象卒園生3名)
- ・ 個別アフターケア。元担当職員、FSW、タスクメンバーでアフターケアを実施。食事をしながら個別の状況を確認、ケースによっては市町村とも連携を行いました。児童の長期的な参加により、心が安定するよう働きかけています。



【課題】

- ・ 創立50周年に向けた同窓会の検討。
- ・ 個別アフターケアの継続。今年度卒園生はもちろん、各年代の卒園生に対しても、必要なアフターケアを実施。アフターケアの業務が特定の職員に偏りがちなところ、組織としての体制作りも検討が必要です。
- ・ 職員退職等に伴うアフターケア業務の引継ぎ。どの年代の卒園生に対してもアフターケアの関わりが途絶えないように配慮できる体制を意識する必要があります。

令和7年度事業報告

⑩ 健康と安全タスクチーム（青木看護師）

子どもたちの生活環境に潜む危険と、予防医学の考え方に着目し「健康と安全」を掲げ活動中です。

夏には、「熱中症警戒アラート発令中の遊び方」や「外出時に注意すべき危険な場所」などについての情報などを発信し、子どもたちが安全に夏休みを過ごせるよう取り組みました。

また、外部の専門職の方々にもご協力をいただいております。深谷警察の協力のもと「不審者対応」について職員が学んだほか、中高校生には4月から導入された新たな「自転車の交通ルール」について指導していただき知識の向上に努めて参りました。救命士の方からは「AEDの使い方」について指導を受けるなど、実践的な知識と技術の習得にも努めました。担当職員が外部研修に参加し、そこで得た知識を「伝達講習会」という形にして、希望職員へ伝える活動も行っております。

さらに、毎月ヒヤリハット事例を報告書としてまとめ、職員間で共有することで、大きな事故につながらないよう環境の見直しと改善を行ってきました。

子どもたちが日常生活の中で感じる健康に関する疑問には、『なあぜなあぜ？』という壁新聞を作成して毎月発行する活動も継続しております。

子どもたちが「健康で安全に過ごすにはどうしたら良いのか」を自分で考え行動できるよう、次年度も引き続き取り組んでいきたいと思っております。



⑪ ITタスクチーム（平本施設長）

職員が使用する日誌や心理記録、といった情報共有ツールの刷新を行いました。他業種での管理システムの利用経験があるメンバー3名が中心となって、この移行がスムーズに進むように職員へのサポートや業者との調整を行いました。新システムは8月に無事、供用開始できましたが、過去のデータの移行など年度内に完了できなかった課題もあり、次年度に引き継ぐこととなりました。

令和7年度事業報告

⑫ メンタルヘルス活動（平本施設長）

今年も運営会議の管理のもと、実施しました。職員からの要望、提案のあった活動について承認、実施しました。今年は、ある児童養護施設とそこで暮らす子どもたちの日常を追うドキュメンタリー映画『大きな家』を鑑賞したり、いちご狩り、大谷資料館見学、採掘体験、餃子の食べ比べなど栃木満喫旅行をしたりといった企画がありました。参加を予定していた職員複数が体調不良になったことから遠方に行く予定を縮小して食事会に切り替える、といったハプニングもありましたが、臨機応変に対応できるのも小グループでの企画の良さであると考えています。



令和7年度事業報告

防災訓練活動報告（野田里親支援専門相談員）

日時	避難訓練	訓練内容	消防署 提出
4月19日(土) 15:30～ 15:00～	● 昼間避難訓練(FR) ● 昼間避難訓練(地域小規模ねむの木)	非常食の確認・消火訓練 自動通報装置登録電話番号修正・懐中電灯点灯確認 消火訓練・懐中電灯点灯確認	
5月31日(土) 10:30～ 11:00～	● 昼間避難訓練(本園) ● 昼間避難訓練(地域小規模ねむの木)	消火訓練(設置場所確認)・懐中電灯点灯確認 消火訓練(設置場所確認)・懐中電灯点灯確認	
6月21日(土) 15:30～ 14:30～	● 夜間想定訓練(オリーブ女) ● 夜間想定訓練(地域小規模ねむの木)	消火訓練・懐中電灯点灯確認・通報訓練 消火訓練・懐中電灯点灯確認・通報訓練 ※NET119に竹内咲乃さん個人登録	
7月19日(土) 15:30～ 10:30～	● 夜間想定訓練(かしのき) ● 夜間想定訓練(地域小規模ねむの木)	消火訓練・懐中電灯点灯確認・通報訓練 消火訓練・懐中電灯点灯確認・通報訓練 ※NET119使用	
8月16日(土) 15:30～ 8月15日(金) 10:30～	● 昼中避難訓練(いちよう) ● 昼間避難訓練(地域小規模ねむの木)	消火訓練・懐中電灯点灯確認 消火訓練・懐中電灯点灯確認	
9月23日(月) 10:00～ ※地域小規模ねむの木も放水訓練 に参加	● 総合避難訓練(調理室) 岡部分署立ち合い ※昼食に非常食を食す(50食分) (新たに50食分発注)	非常食の確認・消火訓練(放水訓練)・通報 訓練・懐中電灯点灯確認 ※グンエイ立ち合い無(ホース収納:野田)	●
10月25日(土) 10:00～ 14:30～	● 地震避難訓練(出火無) ● 地震避難訓練(出火無)地域ね	非常食の確認・消火訓練 懐中電灯点灯確認	
11月16日(土) 15:00～ 14:00～	● 昼間避難訓練(もみのき) ● 昼間避難訓練(地域小規模ねむの木)	非常食の確認・消火訓練 懐中電灯点灯確認	
12月29日(月) 10:30～ 10:00～	● 昼間避難訓練(いちよう) ● 昼間避難訓練(地域小規模ねむの木)	非常食の確認・消火訓練 懐中電灯点灯確認	
1月17日(土) 15:30～ 14:45～	● 昼間避難訓練(ひのき) ● 昼間避難訓練(地域小規模ねむの木)	非常食の確認・消火訓練 懐中電灯点灯確認	
2月14日(土) 15:30～ 16:15～	● 夜間想定訓練(オリーブ男) ● 夜間想定訓練(地域小規模ねむの木)	消火訓練・懐中電灯点灯確認・通報訓練 消火訓練・懐中電灯点灯確認・通報訓練	●
3月21日(土) 15:30～ 16:00～	● 地震避難訓練(出火無) ● 地震避難訓練(出火無)地域ね	非常食の確認・消火訓練 懐中電灯点灯確認	

* 非常食は1食分を毎年食べ、その分を新たに購入。(消費期限が5年のもの)⇒現時点では3日分の食料を確保している。
賞味期限の短い物は通常献立にて食し、新たに購入している。今後はアルファーマの備蓄を増やし、賞味期限の短い食品
購入数を減らしていく。

7. 自立援助ホーム「三愛子ひつじ寮」総括

ホーム長 釜谷 豊

1. 在籍者数

令和8年3月31日時点の在籍者数は、定員9名に対して4名（男子1名、女子3名。うち一時保護委託者は0名）でした。年間の受け入れ延べ人数は69名で、一時保護委託者は5名でした。退所者は4名で、退所後の行先として一人暮らしは2名、Ⅱ型自立援助ホーム入所1名、児童相談所の一時保護となった児童が1名でした。

入所者は2名で、内訳は児童養護施設から1名、里親宅から1名でした。一時保護の受け入れは3名でうち入所1名、退所2名でした。

2. 利用者の最善の利益の追求 ～安心・安全な暮らしの提供～

異なる養育環境で育った利用者の話を丁寧に聞き取り、個別のニーズを把握することで、本人の主体性を尊重した支援に努めました。児童相談所、医療機関、学校、就労先などと密に連携し、適切かつ迅速な対応ができる体制を整えました。利用者ごとの課題に対しては、補助金・支援金や障害福祉サービスなども活用し、専門性の高い個別支援を実施しました。これにより、本人が安心して未来への一歩を踏み出せるよう支援しています。

退所後も、定期的な連絡や寮外での面会相談、寮での相談及び行政や支援機関への同行対応など、継続的なアフターケアを行っています。また、誕生日やクリスマス、行事食の提供などのイベントでは、プレゼントや料理を自分で選ぶ機会を提供し、自主性や選択の経験を大切にしています。

リビングの環境設定を見直し、利用者の皆さんがより快適に過ごせる場所づくりを行いました。



3. 職員にとって最善の職場環境の追求

法人と連携し、講師を招いたスーパービジョン（SV）を1回実施しました。これにより、児童福祉法の改正に伴う自立援助ホームの在り方を見直し、特色を明確にした要綱の作成を行いました。

また、パート職員の増員により、宿直や日常業務の負担が軽減され、利用者支援に充てる時間の確保が可能になりました。連続勤務の削減にも取り組み、年次休暇やリフレッシュ休暇を活用しながら、ワークライフバランスを意識した勤務体制の構築に努めました。

施設内虐待防止のための交換研修では、県内の他の自立援助ホームの職員2名を受け入れ、職員同士の学びの場や意見交換の場を持つ事ができました。

令和7年度事業報告

4. 財 政

自立支援担当職員や個別対応職員の配置によって措置費の加算を受けることができました。専門学校へ進学する利用者に対して様々な支援金・奨学金・助成金の活用を行う事で一人暮らしができるように整え、無事に送り出すことができています。

防犯機能上、不具合をきたしていた玄関扉を助成金の活用により、堅牢なものに交換する事ができました。

またコピー機を大型のレンタル品から小型のものに換えてコストの削減に努めました。

定員に対して必要な職員が充足できない1年ではありましたが、その分、パート職員の配置を駆使し、乗り切ることができました。



5. 地域との連携

近隣住民の方々への登下校時のあいさつや、自転車利用時の交通ルールの徹底、夜間の騒音への配慮など、地域生活での基本的なマナーを利用者に伝え、地域に受け入れてもらえるよう働きかけました。

清掃専門のパート職員には、引き続きゴミ収集所の清掃や雑草取りなどを行っていただき、地域の美化活動に貢献しました。さらに、市役所・郵便局・駅・保健センターなどの公共施設を訪問し、自立援助ホームの制度について説明するなど、施設に対する地域社会の理解促進にも努めました。

また、狭い路地裏での接触事故防止のために、寮のT字路にミラーを設置しました。



6. 法人のサポート体制

毎月、理事長との面談を実施し、管理業務や運営上の課題について助言をいただきました。職員会議にも理事長にご出席いただき、法人の理念を踏まえた支援方針を共に検討することができました。

また、措置費請求などの経理業務や、職員の労務管理についても事務長から助言を受けながら対応し、円滑な運営に繋げることができました。

令和7年度事業報告

8. 理事会・評議会開催の報告

令和7年度 理事会・評議委員会等

令和7年6月10日	令和6年度 定例役員会	【議題】 - 令和6年度事業報告の件 - 令和6年度補正予算の件 - 令和6年度収支決算報告の件 - 監事による監査報告 - 令和6年度資産総額変更の件 - 定款変更の件 - 子ひつじ寮管理規程変更の件 - 墓地管理規程変更の件 - 次期評議員候補者推薦の件 - 次期役員候補者の件 - 次期評議員選任解任委員の選任の件 - 定時評議員会の招集の件 - 評議員選任解任委員会開催の件 - その他報告
令和7年6月25日	令和6年度 定時評議員会	【議題】 - 令和6年度収支決算報告の件 - 財産目録承認の件 - 理事及び監事の選任の件 - その他報告事項
令和7年6月24日	令和7年度 評議員選任解任委員会	【議題】 評議員選任の件
令和7年6月25日	令和7年度 第1回役員会	【議題】 理事長選任の件
令和7年12月12日	令和6年度 第2回役員会 オンライン	【議題】 就業規則改訂の件
令和8年3月27日	令和6年度 第3回役員会	【議題】 - 令和7年度補正予算案の件 - 令和8年度事業計画案の件 - 令和8年度収支予算案の件 - 給与規程別表1変更の件 - 経理規程変更の件 - その他報告事項

令和7年度事業報告

9. 「思いやり」の報告

さんあいの養育目標は「思いやりのある子」です。そしてその実践として、地域から国、そして世界の人々に対して私たちの支援の輪を広げることを標榜しています。令和7年度は、以下の支援をすることができました。感謝を持ってご報告いたします。

- 子どもたち、職員からのクリスマス献金66,000円を、パレスチナでの緊急人道支援、復興支援に携わるNGO 日本国際ボランティアセンター（JVC）に寄付いたしました。

〒369-0212

埼玉県深谷市櫛挽 15-2

社会福祉法人三愛学園 様

募金のご協力、誠にありがとうございます。

JVCが活動する地域には、様々な状況に苦しむ人々が暮らしています。

例えば、開発計画によって土地や森を奪われ、暮らしていくすべをなくす人々。紛争や災害によって人間らしい暮らしを奪われた人々。困難な状況の中でも「暮らしをかえていきたい」、「大切な人、ものを守りたい」と願う彼らに、私たちは寄り添い続けます。

ご支援、本当にありがとうございました。

代表理事

熊岡 路矢

切り取り線

領 収 証

(寄附金受領証明証)

No. 20266411206

社会福祉法人三愛学園 様

埼玉県深谷市櫛挽 15-2



©日本国際ボランティアセンター

令和7年度事業報告

10. 感謝の報告

今年度、下記の団体から助成金、物品の寄贈をいただきました。これ以外にも児童個人に対する奨学金、金品のご寄付などたくさんのご支援をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

団体・基金名	助成・寄贈内容
株式会社インテック	ノート型パソコン（dynabook G83）リユース品 1台
カスミユニオン	Apple iPad（A16） 11インチ Wi-Fiモデル 256GB 1台
一般社団法人こども・笑顔創出プロジェクト	こども商品券
公益社団法人24時間テレビチャリティー委員会 横山さんのマラソン子ども支援	グルメカード、旅行券



令和7年度事業報告

写真でみる令和7年度



入園・入学を祝う会（4月）



JSF交流イベント（4月）



さんあいまつり（6月）



アニマルクラブ・ペットショップ体験（6月）



夏みかん・輪ゴム鉄砲づくり（6月）



ハムスターがぶどうの木に仲間入り（7月）



子ども会七夕飾りづくり（7月）



シネマさんあい（7月）

令和7年度事業報告



ジャガイモ収穫（7月）



深谷まつり（7月）



園庭プール（7月）



むさしの村ご招待（7月）



第三者委員のお話し（7月）



くしびき夏祭り（8月）



ホーム外出（8月）



埼児協・親善球技大会（8月）

令和7年度事業報告



深谷東RCボウリングご招待（8月）



アニマルクラブ動物指導センター訪問（8月）



カットボラ（8月）



ミスト扇風機（8月）



ガーデン・パーティー（9月）



ハロウィン（10月）



ウサギさん3羽、ぶどうの木の仲間に（10月）



ヒップホップダンス（10月）

令和7年度事業報告



大掃除 (11月)



アニマルクラブ牧場見学 (11月)



クリスマスツリー点灯式 (12月)



クリスマスコンサート (12月)



クリスマス礼拝 (12月)



クリスマス祝会 (12月)



サンタルギーニ (12月)



第三者委員のお話し (12月)

令和7年度事業報告



お年玉（1月）



餅つき（1月）



書初め（1月）



職員1日研修（1月）



中高生会議（1月）



卒園生の送り出し（3月）



雪の翌日（3月）



卒園・卒業を祝う会（3月）

令和 7 年度中の関係者のご支援と神様の恵みに感謝いたします！

“あなたので欲しいことを、あなたの隣人にもしてあげなさい。”

(聖書)

児童養護施設は、保護者のいない児童、虐待されている児童その他環境上養護を要する児童を入所させて、これを養護し、あわせて退所した者に対する相談その他の自立のための援助を行うことを目的とする施設とする。（児童福祉法 第41条）

社会福祉法人三愛学園

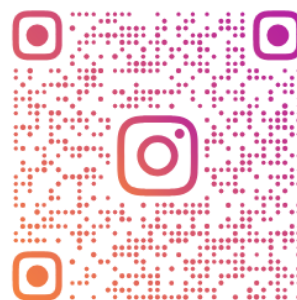
369-0212 埼玉県深谷市櫛挽15-2

電話 048-585-0605

Fax 048-585-0562

[Web サイト] <https://san-ai-jidouyougo.org/>

[Instagram] <https://www.instagram.com/sannai0605/>



SANNAI0605